

一ノ関駅周辺整備

磐井川堤防改修を まちづくりの好機に

一関遊水地事業の進ちょくに伴い、国土交通省では今後、磐井川堤防の改修を予定しています。この改修により、堤防沿いの公共施設などの移転改築が必要となっています。市は堤防改修をまちづくりの好機として、一関の顔であるとともに、公共交通機関が連結し市民などが集まりやすい交流拠点としても重要な役割を担つておる一ノ関駅周辺に公共施設などを集約し、中心市街地の活性化にもつながる効果的、効率的なまちづくりを、市民との協働の下に進めていくこととしています。

基本構想(素案)作成の取り組み

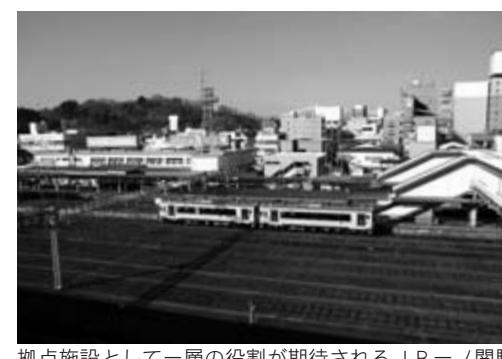
市は19年7月、磐井川堤防改修計画を受けて「磐井川堤防改修に関するまちづくり検討委員会」を府内に設置、公共施設等の再配置などまちづくり基本構想の素案づくりを進め、昨年10月、取りまとめました。

*あくまでも現時点でのイメージであり、場所などを特定したものではありません

素案では、△堤防改修に伴い支障を受けない市、国、県の施設なども含め再配置を検討△維持管理などを考慮し、施設の集約化、複合化を検討△などを基本的な考え方として、公共施設などの現況や再整備の必要性について検討を行い、これらを踏まえ、公共施設などの再配置について、次の四つを基本方針に掲げました。

- ①再配置は駅および周辺地域の機能充実を中心検討
- ②移転が必要なものだけでなく、老朽化や機能が類似している施設なども駅周辺に集約化
- ③交流インフォメーション機能の整備
- ④JRを含めた民間テナントとの合築も検討

一ノ関駅周辺へ再配置する公共施設は、図書館、勤労青少年ホームなどの機能とし、このほか市民活動や老人福祉、子育てサポート、まちの情報センター機能などを併せ持つ、複合施設の整備を予定しています。また、△東西自由通路の設置△現在駅周辺に約400台分確保されて



いる駐車場について、さらに350~400台分の確保なども盛り込んでいます。現在、JR東日本東北工事事務所に、基礎資料の作成や計画



【ワークショップ】
上 一ノ関駅周辺の整備に関するワークショップ
中 一ノ関駅や駅前広場、駐車場などを見て回り、状況を確認しました
下 分野ごとに課題を整理し意見交換。検討の成果は、3月の全体会で発表される予定です

その後、22年度から基本設計、実施設計を行い、24年度から建築工事に着手、26年度の完成を目指す予定としています。

駅周辺整備の基本構想は5月末ごろまでにまとめ、引き続き、市民の皆さんと協働で、21年度中をめどにそれに基づく基本計画の策定作業を進めていきます。

その後、22年度から基本設計、実施設計を行い、24年度から建築工事に着手、26年度の完成を目指す予定としています。

駅周辺整備は26年度完成を予定

市民との協働で構想づくり推進

現在の素案はあくまでもたた

き台であり、基本構想、基本計画はこれから市民の皆さん意見、提言をいただきながら協働で作業を進め完成させていくことをしています。

このため、昨年11月21日と25日に市民懇談会、12月17日には関係団体などとの懇談会を行つて素案の概略を説明し、参加者からさまざまな意見、提言をいたしました。

さらに1月26日から「一ノ関駅周辺の整備に関するワークショップ」を開催しています。商工団体や市民活動団体、市内高校生、まちづくりスタッフバンク登録者など49人で構成し、次の四つのワークショップに分かれ

- ①複合施設：公的機能、規模や配置、民間機能の可能性、駅や複合施設利用者の動線など
- ②街なか賑わい：駅や複合施設
- ③都市環境整備：東西自由通路、駅前広場、駐車場、駐輪場、駅周辺の歩行者・自動車の動線など
- ④観光客受け入れ：観光客の利

から市民や観光客を街なかに誘導する方策など

③都市環境整備：東西自由通路、駅前広場、駐車場、駐輪場、駅周辺の歩行者・自動車の動線など

④観光客受け入れ：観光客の利

から市民や観光客を街なかに誘導する方策など

③都市環境整備：東西自由通路、駅前広場、駐車場、駐輪場、駅周辺の歩行者・自動車の動線など